



2022年4月1日  
日本銀行札幌支店

# 北海道金融経済概況

2022年3月

<本件に関するお問い合わせ先>  
日本銀行札幌支店 営業課（電話011-241-5232）  
ホームページアドレス <https://www3.boj.or.jp/sapporo/>

<当店ホームページ>



# 全体感

北海道の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している。

すなわち、個人消費は、サービス消費を中心に下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している。観光は、引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっている。設備投資は、緩やかに持ち直している。公共投資は、高水準ながら弱めの動きとなっている。住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。生産は、横ばい圏内の動きとなっている。輸出は、持ち直している。

雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている。

# 項目別判断の前回との比較

		前回	今回	変化
総括判断		新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強まっており、持ち直しの動きが一服している。	新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している。	→
需要項目	公共投資	高水準ながら弱めの動きとなっている。	高水準ながら弱めの動きとなっている。	→
	輸出	持ち直している。	持ち直している。	→
	設備投資	緩やかに持ち直している。	緩やかに持ち直している。	→
	個人消費	サービス消費を中心に下押し圧力が強まっており、持ち直しの動きが一服している。	サービス消費を中心に下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している。	→
	住宅投資	緩やかに持ち直している。	横ばい圏内の動きとなっている。	↓
生産		横ばい圏内の動きとなっている。	横ばい圏内の動きとなっている。	→
雇用・所得		労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている。	労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている。	→

# 総括判断の推移

	公表日	前回比	総括判断
2020年 2月	2/28日	↘	基調としては緩やかに拡大しているものの、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響がみられている
3月	4/1日	↘	新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、下押し圧力の強い状態にある
4月	4/22日	→	同上
5月	5/28日	↘	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、大幅に悪化している
6月	7/1日	→	同上
7月	7/31日	→	大幅に悪化したあと、新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるもとの、きわめて厳しい状態にある
8月	会見なし	(→)	(同上)
9月	10/1日	↗	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、経済活動が徐々に再開するもとの、持ち直しつつある
10月	10/23日	→	同上
11月	11/25日	→	同上
12月	12/14日	↘	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、足もとでは持ち直しのペースが鈍化している
2021年 1月	1/28日	→	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、持ち直しのペースが鈍化している
2月	2/25日	↘	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、持ち直しの動きが足踏みしている
3月	4/1日	→	同上
4月	4/28日	→	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、横ばい圏内の動きとなっている
5月	5/28日	→	同上
6月	7/1日	→	同上
7月	7/29日	→	同上
8月	会見なし	(→)	(同上)
9月	10/1日	→	同上
10月	10/29日	→	同上
11月	11/26日	→	同上
12月	12/13日	↗	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、持ち直しの動きがみられている
2022年 1月	1/28日	→	同上
2月	2/24日	↘	新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強まっており、持ち直しの動きが一服している
3月	4/1日	→	新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している

# 各論

## 1. 需要項目別動向

**公共投資**は、高水準ながら弱めの動きとなっている。

公共工事請負金額は、高水準ながら、年度累計前年比で見ると、弱めの動きとなっている。

**輸出**は、持ち直している。

主要品目別にみると、食料品では、高水準で推移している。輸送用機器等では、緩やかに持ち直している。

**設備投資**は、緩やかに持ち直している。

3月短観（北海道地区）における2021年度の設備投資は、前年を上回る計画となっている。2022年度の設備投資は、前年を下回る計画となっている。

**個人消費**は、サービス消費を中心に下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している。

スーパー、ドラッグストアは、底堅い動きとなっている。コンビニエンスストアは、持ち直している。家電販売は、横ばい圏内の動きとなっている。乗用車販売は、供給制約の影響により、持ち直しの動きが一服している。百貨店、サービス消費は、下押し圧力が強い状態にあり、弱い動きとなっている。

観光は、引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっている。

**住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。**

新設住宅着工戸数をみると、持家は、減少している。貸家は、低水準で推移している。分譲は、持ち直している。

## 2. 生産

**生産（鉱工業生産）は、横ばい圏内の動きとなっている。**

主要業種別にみると、食料品では、一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直しつつある。輸送機械では、緩やかに持ち直している。電気機械では、横ばい圏内の動きとなっている。紙・パルプでは、減少している。

### 3. 雇用・所得動向

雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている。

### 4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）は、エネルギー価格を中心に前年を上回っている。

### 5. 企業倒産

企業倒産は、低水準で推移している。



## 6. 金融情勢

預金残高は、個人預金、法人預金ともに増加している。

貸出残高は、前年並みとなっているものの、高水準で推移している。

貸出金利は、既往ボトムの水準で推移している。